

「まち」の企業訪問 元気じるし登場

223

かじや (三和商工会)



宮崎さん親子(左:文徳さん、右:義和さん)

上越市三和区は上越市中心部に位置し、広大な田園風景が印象的な地域です。今回は、酒販売と飲食業(仕出し・料理)を経営される「かじや」を訪ね、事業主の宮崎義和さん、後継者の文徳さんにお話を聞きました。

一世代一商売

「正式なルーツは不明ですが、もとが鍛冶屋であったため、かじや」という屋号です。古くから地元で商いをしていた、祖父は雑貨商と酒類販売を手掛け、父



店舗外観

代一商売“がうちのスタイルだと思えます。”事業主である宮崎義和さんは、おらかな口調で店の歴史を語ってくださいました。昭和49年に家業を継いだ義和

と母は豆腐屋もしていました。私は調理師免許を取り料理や宴席を扱うようになったので、それぞれにその時代に合った商いをし、お客様に喜んで頂く、一世代

さんは、調理師の腕を活かし営業の幅を広げ、ご活躍されています。加えて、後継者である息子の文徳さんは地酒をインターネットで販売し、親子が中心となって店を切り盛りしています。

斬新な2枚看板による ネット販売

文徳さんは商工会青年部に所属し、先輩部員の勧めでネット販売を始めました。酒屋にとっては厳しい経営環境の中、利幅が少ないためいかに付加価値をつけて販売するかということが大きな課題になりました。

意外なことにヒントは、ネット販売を通じて予想以上の人が自分の発信した情報を見ているということでした。待つのではなく商品提案することの大切さに気付いたそうです。1年以上に及ぶ試行錯誤の末、売れ筋商品を扱う「かじや」と、提案型の商品で付加価値を追求した「まさか酒店」という2枚看板のホームページを展開する現在の販売戦略が生まれました。まさ



まさか! 酒店での取扱商品 (一部)

か酒店で手掛けた「日本酒年賀状」や「ペン吟醸」等の奇抜な商品展開は、テレビやラジオに多く取り上げられ話題にもなりました。現在では酒販売のネット売上が店全体の4割を超え、成果が表れるようになりました。

情報発信と結び付きを大切に

将来の目標について文徳さんは、「酒を飲むと人が笑顔になるように、酒をきかけに皆さんに喜びを運ぶ販売をしていきたい。」と答えてくださいました。蔵元の酒造り体験や農業体験など酒と人と地域を結び

つける事業も考えているそうです。ネット販売を通じてお客様の中には、わざわざ遠方よりお訪ねいただく方も少なくないと言います。そんな経験から大きな情報発信の力を酒や地域の魅力を伝えることに活かしたい、との気持ちが大きくなりました。

このような息子の仕事ぶりに、義和さんは「今までがそうだったように、一世代一商売」で、自分を活かした商売にしていってほしい。」と期待を寄せていますが、親子で担うものは違いますが、お二人の意欲的な舵取りで、これからも商売と地域、そして人の結び付きを大切に地域の酒屋でありつづけるよう期待したいと思っています。

「お問い合わせ」 かじや

〒943-0316
上越市三和区下中1502
TEL 025-53212023
FAX 025-53212755
新潟の地酒かじや
<http://www.kajiyonet.com/>
まさか一酒店
<http://masaka-saketen.com/>
定休日 毎週月曜日